

委員会レター 委員会レター

全史料協事務局

[会議報告]

第2回委員会

平成11年度第2回役員会は、役員等31名が出席し、平成11年9月8日(水)に茨城県立歴史館において開催された。

平成11年6月に人事異動があり、岩崎純夫氏(神奈川県立公文書館長)が新会長に、高澤利弘氏(東京都公文書館長)が新副会長に就任した。

報告・協議事項の概要は、以下のとおりであるが、委員会報告については、各委員会欄を参照していただきたい。

<報告事項>

(1) 前回役員会記録報告(略)

(2) 会員現況報告

8月31日現在の会員数は、460。会費の納入状況は、納入者343(納入率75%)。

(3) 「国立史料館」の現状について、高木俊輔氏(国立史料館長)から報告があり同館の移転、予算減、事務官の減等を含む独立行政法人化の問題が提起された。全史料協としてどう取り組んでいくのか自治体も同様な問題を抱えており難しい問題であり、組織・法制委員会で検討してもらい、次回の役員会でも取り上げることにした。

<協議事項>

(1) 第25回全国大会(新潟大会)については、9月7日現在247名の出席見込みがあり、10月27日から3日間の具体的日程について説明があった。

(2) 委員会提案について

<研修・研究委員会>

講習会等の開催を促進する目的で会員の共通課題を取り上げ、調査、研究を行い必要な事項を定めるために、研究課題の設定、チームの編成、成果の報告、期限の設定等

を内容とした「課題研究(プロジェクト)推進要綱(案)」について提案説明があり、了承された。

<国際交流委員会>

「EASTICA憲章改正提案への対応について」提案説明があり了承された。

来年のICA大会は、スペインで開催されるが、ツアーを組んで派遣することの要望があった。

(3) 岩上妙子顧問の辞任願出の取扱いについて岩上氏の辞任願出について報告があり、ご本人の意志は固いが、顧問としていただく意義は大きいので慰留に務めることとした。

<その他>

(1) 次回の役員会は、来年の2月に首都圏で開催することとした。

(2) 来年度の全国大会は、大分県に要請していたが大分県では、開催に向け内部手続きを進めているということであった。

組織・法制委員会

[会議報告]

第2回委員会

・日時 1999(平成11)年7月26日(月)

・場所 東京都公文書館

・出席者 委員6名、事務局2名

・審議事項及び結果

(1) 会則及び組織問題についてのアンケート調査結果について

① 結果の公表について

・アンケート実施の目的は、会員が共通の問題を探り、認識を深めることであったが、現段階では委員会としてのコメントが必要な状況になっている。結果を要約し、全国大会前に資料として準備する必要がある。ただ、本委員会の意向としては、現段階において法人化を促進するべ

きではなく、あくまでも検討課題としてとらえるべきである。

- ・アンケート実施にあたって、全会員が問題を把握していなかったため、混乱を生ずる結果になった。実施に至る経緯を会員に知らせ、問題点を表示するとともに継続的な検討課題として提示する。

② 役員会への対応について

- ・役員会に回答集を提示し、各役員に問題点を再認識してもらう。

③ 実施の経緯説明及び回答結果のとりまとめについて

- ・9月末日までに担当委員がまとめ、次委員会で検討する。全国大会に資料として提示する予定である。

(2) 委員会制度に関するアンケート結果について

① 回答内容については、次のような意見が出された。

ア 委員会はとりあえず現状のまま様子を見る。

イ 委員等の旅費支給については問題点が多く、改善する必要がある。

ウ 委員会相互の横の連絡を密にするための方策が必要である。

② 委員会としての対応について

- ・今回のアンケート回答集をもとに、役員会で結果を報告する。

- ・委員会相互の連絡については、今後会長事務局と相談する必要がある。例えば、役員会の時に実務的な会を開き、委員会相互の理解を深める場を設定するのも一案である。

(3) 情報公開法への対応について

- ・既に各省庁ともガイドライン案はほぼできてきているらしいので、その情報を入手できるよう努力する。

(4) 国立公文書館法について(石原委員の報告)

- ・6月21日(月)に一橋学士会館に於いて、全史料協・日弁連・法制史学会の三者で意見交換を行った。日弁連としては、国立大学所蔵の民事判決原本が国立公文書

館に移管される道が開けたことを評価している。ただ多くの問題を抱えていることも事実であるが、現状では静観する以外はないという共通認識をもった。今後もこの連絡会は継続させる予定である。

(5) その他

- ・副委員長の人選については、高橋委員より辞退の申し出があり再度検討の末、鈴木邦男委員を推薦し本人の承諾を得た。

大会企画委員会

【会議報告】

- *審議は本年度大会に関して継続して行われていますので、個々の開催記録では事項のみを記し、内容・結果は「活動報告」にまとめて報告します。

平成11年度第4回委員会

・日時 1999(平成11)年7月27日(火)

・場所 埼玉県立文書館

出席者 委員4名、事務局3名

欠席者 委員4名

・審議事項及び結果

(1) 大会テーマ研究会について

(2) 自由テーマ研究会について

(3) 大会要項の編集について

(4) 2次案内について

(5) その他

平成11年度第5回委員会

・日時 1999(平成11)年9月3日(金)

・場所 オークラホテル新潟

出席者 委員2名、事務局2名、開催県準備会(新潟県立文書館及び新潟県歴史資料保存活用連絡協議会により構成)4名、ホテル担当者2名

欠席者 委員6名

・審議事項及び結果

委員会と開催県準備会及び会場ホテル担

当者による会場の現場見学と大会準備・運営方法の検討・確認。

【活動報告】

研究会報告者等の決定

第4回会議において、開催県準備会での検討結果の提案を受け、全体会2名、分科会4名（各分科会2名）の報告者が決定されました。あわせて各分科会のテーマがそれぞれ「地域における公文書保存管理の現状と課題」「地域における民間史料の保存と活用」と決められました。また、自由テーマ研究会についても、同会議においてテーマ・報告者が決定されました。

その後、開催県準備会と委員会事務局で司会・記録の人選及び依頼を行い、あわせて各会場担当委員を決定、9月中旬には研究会に関わるメンバーが確定しました。

大会要項の内容検討及び編集

総会資料や研究会資料を1冊にまとめ、大会受付で参加者に配布している「大会要項」につき、第4回会議で次のような検討を行いました。

- ① 大会要項、当日配付資料、会報大会特集号の内容区分を検討。大会要項は要点・骨子を記した見開き2頁を基本としたレジメとし、報告内容は会報で文章化する。その結果、当日配付資料が出るのは仕方ない、との認識に立つ。
- ② 不参加会員への配布方法の再検討が必要。
- ③ 次の理由から、巻末資料の削減の方向での見直しが必要。
 - ・大部になってきたための経済的負担。
 - ・会員名簿の個人情報としての扱い。
 - ・「大会のあゆみ」は20周年記念誌において第20回までは既に集約・記録化されている。

その検討結果をもとに事務局から会長事務局に連絡・協議をしましたが、大きな変更は役員会に提案のうえ来年度分からとし、今年度分では次のような修正を加えて編集を開始、9月30

日時点では校正作業の過程にあります。

- ・研究会資料を会議結果どおり2頁程度のレジメとする。
- ・「大会のあゆみ」のうち第20回大会までは内容を省略する。
- ・会則や関係系収録の削減を行う。

大会の案内・広報

1次案内ではお知らせできなかった研修会の各講義概要、研究会の報告者・テーマ及びその概要について、8月13日付で会員及び関係機関に2次案内を行いました。

また、本会ホームページ及び『会報』第49号に案内を掲載いただいたほか、関係団体の雑誌やホームページでも紹介されました。

展示会出展の募集

① 協賛企業展示

7月21日付で『記録と史料』広告掲載企業を中心に募集、10社の参加を得ました。

② 機関会員等刊行物展示

8月13日付で機関会員に募集、26機関会員の参加を得たほか、協賛団体である新潟県歴史資料保存活用連絡協議会や防災委員会等の展示参加を得ました。

*

多忙な各委員の日程調整等が困難なため、8月以降は新潟での運営打合せを中心とした委員会を除き、各委員とは通信による意見交換を行いながら、事務局と新潟県立文書館を中心として準備を進めています。この間、総会等を担当くださる会長事務局、特別講演の企画運営にあたられている国際交流委員会事務局、研修会を主催される研修・研究委員会事務局などと頻繁に連絡を取り、準備も最終的な段階に至ろうとしています。本紙が皆様のお手元に届く頃には、無事、大会を迎えられていることを願っています。

国際交流委員会

[活動報告]

■来日アーキビストの受入

① 北京市檔案館代表団の受け入れ

8月2日から8月13日にわたり、北京市檔案館訪日代表団が来日した。今回は全史料協が招聘状を発行しての受け入れとなった。代表団のメンバーと滞在中の活動日程は以下の通りであった。

◎代表団メンバー

団長：王国華（北京市檔案館前館長・北京市檔案学会理事長）

団員：張新戰（北京西城区檔案館副館長）

徐金華（北京市檔案館副館長）

楊恩財（北京市檔案館副館長）

趙艷達（北京市檔案館副館長）

李向罡（国家檔案局館長）

◎活動日程

8月2日（月） 成田到着

8月3日（火） 東京都公文書館視察、国立国会図書館視察

8月4日（水） 江戸東京博物館見学、国立公文書館視察

8月5日（木） 神奈川県立公文書館視察、横浜開港資料館視察

8月6日（金）～7日（土）

都内自由行動

8月8日（日） 大阪へ移動

8月9日（月） 企業史料協受け入れの活動

8月10日（火） 大阪市立公文書館視察、大阪市立中央図書館視察

8月11日（水） 奈良市内見学

8月12日（木） 京都市内見学

8月13日（金） 帰国

以上の日程中、視察に訪れた各機関の皆様には大変お世話になった。なお滞在中、8月

5日の神奈川県立公文書館を視察中に、団長王国華氏が体調を崩されるというハプニングが生じたが、その際の対応にあられた関係各位には心より感謝申し上げる。また、代表団の来日中には、企業史料協の方々にも大変お世話になった。今回の受け入れは今後の海外からの視察団を受け入れるにあたって、いくつかの教訓を得た貴重な機会であった。

② マイケル・ローバー氏記念講演会

前号でもお知らせしたとおり、駿河台大学の招聘により来日される、マイケル・ローバー氏の記念講演会を新潟大会において開催する。記念講演のタイトルは「近時におけるアーカイブズの動向と任務」。現在、マイケル氏の連絡調整などにあっている。

セビリア2000

第14回 ICA大会

来年は4年に一度のICA大会が、スペインのセビリアで開催される。期間は2000年9月21日～26日。ICA大会は今回で第14回目を迎える。日本からも多くのアーキビストの参加が望まれる。大会事務局が下記のアドレスで情報を提供している。

<http://www.mcu.es/lab/archivos/se2000.html>

専門職問題委員会

[会議報告]

第2回委員会

05・日 時間1999（平成11）年9月1日（水）

・場 所 学習院大学史料館・会議室

出席者 委員6名、事務局2名

欠席者 委員5名

・審議事項及び結果等

(1) 委員長報告

組織・法制委員会の「委員会制度に関するアンケート」に関しては、前回の委員会で回答方法について協議したが、回答があった委員の意見と委員長の意見をまとめ、個人的立場からの見解として回答した。

また、当委員会が昨年度実施・作成した「史料保存機関職員の実態調査アンケート集計結果報告書」の実費配布に関するお知らせを行う件に関しては、編集・出版委員会に会報への掲載を依頼済みである。

(2) 実態調査の原案について

① 大学等における資史料専門教育の実態調査の原案について

担当委員の原案に基づき検討した。

今回はアンケート項目は作らず、シラバス等を送ってもらうかたちとするが、依頼文書の内容や送付先大学リスト等について、次回委員会で引き続き検討することとした。

なお、発送については、今年度中を目標とする。

② 都道府県等における資史料担当者研修会の実態調査の原案について

担当委員の原案に基づき検討した。

アンケート調査は、都道府県及び政令指定都市の機関会員、首長部局、教育委員会あての3本とする、項目数はなるべく少なくする、回答しやすい内容とする、今年度の最新データを収集するため、発送は1～2月ごろとするなどの枠組みについて決定し、タイトルの問題や調査の各項目内容については、修正案等に基づき、次回委員会で引き続き検討することとした。

(3) 安藤副委員長(国立史料館)の報告

11月16日～18日の3日間、エルサレムで開催されるICAの専門職委員会で、「アジアにおけるアーキビスト養成の現状と課

題」について講演する。

防災委員会

〔会議報告〕

第2回委員会

・日 時 1999(平成11)年9月28日(月)

・場 所 東京都世田谷区 国際資料研究所

出席者 委員5名、事務局1名

欠席者 委員1名

・審議事項及び結果

(1) 平成11年度防災研修会の開催について

日 時 平成12年1月22日(土)

午前10時～午後5時

会 場 兵庫県中央労働センター

共 催 防災委員会・近畿大会

名 称 「アーカイブセミナー
—阪神・淡路大震災から5年、
災害と記録史料考える—」

日 程

午 前 被災自治体からの報告と質疑・応答

昼の休憩時 防災研修会のビデオを上映

午 後 講演 文化庁 田良島 哲氏
研修「あなたのまわりの防災」

①「防災計画を考える」全体
説明と基調報告

②「あなたの防災計画を自己
点検する」

全体の質疑・応答

*近畿部会と連絡をとり、細部について
検討し決定していく。

(2) 防災研修報告書『資料が燃えた! そのときあなたは—火災実験と緊急対策—』の編集と校正について

・初校は、9月15日までに完了させることとする。

・機関会員と個人会員には無料配布し、そのほか希望者には有償頒布の予定。

(3) 全史料協全国大会の展示について

- ・防災研修報告書と『文書館の防災にむけて』を展示する。
 - ・「書庫の救急箱」のパネル展示を行う。準備は事務局で実施。
- (4) 次回の委員会の予定
平成11年12月13日(月)アジア防災センターで

[活動報告]

- * 防災研修報告書『資料が燃えた! そのときあなたは—火災実験と緊急対策—』の執筆と編集を、平成11年6月から10月にかけておこなった。
- * 平成11年度防災研修会開催について、近畿部会との打ち合わせを、8月27日(金)に大阪でおこなった。
- * 防災研修会については、全国大会時や全史料協ホームページ等でお知らせします。

研修・研究委員会

1. 第2回委員会

- ・日時 1999(平成11)年7月22日(木)
 - ・場所 東京都: 国立史料館
 - ・出席者 7名(欠席1名)
- (1) 新潟大会研修会の推進について
「文書館の役割」ほか6講座の開設と各担当委員を決定し、準備事項を確認した。
- (2) 全史料協・企業史料協第7回合同研究会の開催について
翌23日(金)開催予定の合同研究会の進行と役割分担を決定した。
- (3) 課題研究(プロジェクト)推進要綱の策定について
事務局作成の原案12カ条を一部修正し、役員会に提案することを決定した。
他の委員会にあっても、それぞれの研究要綱をもつことの必要性が話題となった。
- (4) 課題研究プロジェクトI「公文書の管理に関するアンケート」の実施について

安藤福平チームリーダー提出の原案を検討し、一部に改善意見を伝えて、実行することを決定した。都道府県の文書主管課を対象に、8月中の実施とし、都道府県立文書館等へも、その実施を通知することとした。

4. 第7回全史料協・企業史料協合同研究会

- ・日時 1999(平成11)年7月23日(金)
13:00~17:00
 - ・場所 東京都北区: 渋沢史料館
 - ・主催 全史料協 企業史料協 全史料協関東部会
 - ・参加者 全史料協43人 企業史料協50人
- (1) 研究テーマ “文書館・企業史料の有効活用”
- (2) 内容 報告1「近代行政史料の活用のあり方—主題別索引手段の構築—」
佐藤 正広氏(一橋大学経済研究所附属日本経済統計情報センター)
報告2「所蔵史料等による日独ビール産業史」
内藤 浩氏(サッポロビール(株)元社史編纂室)
- (3) 研究討議 司会: 鈴木 邦男氏(大和町総務課市史編さん担当)

編集・出版委員会

[活動報告]

- 今期は特に委員会を開催していない。
- 会報49号を刊行し、同50号(本号)を新潟大会までに刊行する。
- 記録と史料第10号の編集作業を行っている。
- 「文書館論集(仮題)」の刊行に向けた準備をすすめている。